

ねあらい  
学園だより

浜松市根洗学園  
住所：〒433-8108  
浜松市北区根洗町667-1  
TEL:053-436-9318  
FAX:053-436-9326

在籍児 71名（3月20日現在）  
◇毎日通園  
年長児20名 年中児24名  
年少児23名 2歳児4名  
◇選択通園 らいおん27名 にじ19名  
フレンズ17名 子じか86名  
◇親子教室ねあらい 68名



## 年度の終わりに



今年度も20名の卒園と42名の進級、11名の転園と進路が決まり、次年度への引き継ぎが行われております。保護者の皆様や関係機関のご理解とご協力のお陰と心より深くお礼申し上げます。

学園の卒園生〇君のお母さんが、読んでほしいと卒園児の兄の作文を持参して学園によってくださいました。卒園児は5年生、その兄も中学1年と聞き、その成長の速さに驚かされます。当時いつも〇君と一緒に学園に来ていた兄の姿が思い出されます。持参された作文は、兄の中学校の生徒が文集「はままつ」に「障害の妹」の題名で掲載されたものの感想文でした。兄の作文には次のように書かれてありました。

～僕の弟も障害者なので共感できる部分は何個もありました。子どもたちが「何、あの子」といった風に見てきたり、「おまえ、知的じゃん」と言ってくるのが嫌だったりします。でも僕は隠そうとはしませんでした。・・・大変さを知ってもらいたかったからです。僕の家族は弟の気持ちを読み取ろうと必死でした。でも大変だからこそそれを乗り越えた時こそとても大きい喜びが出来ます。僕も弟の「あ」という一文字だけで、音の高さを変えた単語を聴くのは難しいけれど、意味がわかった時はとてもうれしいです。文の中にもっとたくさんの人に障害者のことを知って欲しいと書いてあったけど、僕もそう思います。僕は、これから弟を大切にしたいと思いました。～

〇君のお母さんは、中一の兄が母親のことばには舌打ちをしたり、あまり話を聞いてくれずさびしいと思春期を感じていた中で読んだ作文に、目の前の姿とは違う兄の心が知れた喜びを話してくれました。そして、特別支援学校で〇君も電卓で計算できるまでになり「将来は、しまうまクラブのパンを学園の母親教室に販売に来ることを目指している」と話されました。楽しみな話です。

私達、根洗学園は卒園生やその家族がいつでも立ち寄れる場所であり続けたい。

私達、根洗学園は兄弟の成長も含めた育ちに一緒にかかわっていききたい。

私達、根洗学園はここにいつもあり、地域の人に学園のことを知ってもらいたい。

学園は26年度、40周年を迎えます。皆さんは、周りの人にどんなことを一番知っていただきたいのでしょうか。“「わかってほしい」ことを発信する”そのことを大事に出来る力（パワー）や技に磨きをかけていきたいですね。26年度は、「発信する・発信出来る」学園でありたいです。今年度をじっくりかみしめ、皆で、次年度へと進んでいきましょう。

施設長 松本 知子





## 新年度ガイダンスのお知らせ



- 日 時 平成26年4月2日（水） 14:00～15:30
- 場 所 集会室
- 内 容 年間行事予定配布、重要事項説明確認、担任発表等
- その他 欠席される方は生活記録表、電話等で3月25日（火）までにお知らせ下さい。  
お話が中心になりますので、保護者の方のみでの参加をお願い致します。  
お子さんを預ける手段がない方は3月26日（水）までにお申し出ください。  
4月2日、ガイダンスの日に4月の利用予定をお渡しいたします。また、当日は印鑑を持参して下さい（重要説明事項で使用します）。  
\*不明な点は担任まで確認をお願い致します。



### 当面の予定

- 4月 2日（水） 新年度ガイダンス（進級児対象、重要事項説明、利用予定表の配布等）  
4日（金） 入園式（進級児は休園）  
7日（月） 始業式、新入園児療育開始（母子通園～11日）  
10日（木） 避難訓練  
15日（月） 短縮日課・新入園児のみ（～16日）  
24日（木） 親子療育スキップ 親子で歩く・お弁当を食べる  
30日（水） 誕生会



### お 知 ら せ

#### ・始業式について

4月7日（月） 11:10～11:40 プレイルームで行います

#### ・バス停について

新年度、新入園児を迎える等の事情によりバス停の変更にご協力いただく場合があります。対象となる方には春休み中に電話連絡をいたします。バス停の変更がない方には連絡がありません。詳細は4月2日の新年度ガイダンスでお知らせいたします。

#### ・持ち物について

雑巾1枚、手拭きタオル1枚、ティッシュペーパー1箱（園で使用させていただきます。ご協力お願いします）  
防災ずきん、着替えストック（服、ズボン、下着など必要に応じて）上靴、プレイグラウンド用外靴（ももグループのみ）\*個人で使用するものについては記名の確認をお願い致します。

平成26年4月1日より、消費税の変動に伴い、利用料に関する国の法律の変更が予定されております。ご理解・ご協力を宜しくお願い致します。





# 三方原幼稚園親子交流



今年度は5回三方原幼稚園にて、親子交流が行われました。毎行われるはじめの会では、幼稚園の先生に名前を呼ばれて「はい！」と元気に返事をして前に出ていく子や、うつむきながらも恥ずかしそうに手を挙げる子も…。

今年度幼稚園で行われた活動は、色水あそびやリレーごっこ、外あそび、リズム、体操など盛り沢山！子どもたちは、お母さんと一緒に幼稚園児の真似をして楽しんだり、幼稚園児から色水の作り方を教えてもらいました。外あそびでは、学園にはない遊具やおもちゃで楽しそうにあそぶ子どもたちも…。

来年度も、三方原幼稚園親子交流を行います。親子交流では幼稚園児との関わりの中で、普段なかなか見ることのできない子どもたちの姿を見ることができます。今年度参加された方も参加されなかった方も、ぜひ来年度の三方原幼稚園親子交流への参加をご検討してみてください。



## 三方原幼稚園来園交流

今年度は6月11日、11月11日、2月7日の計3回、三方原幼稚園の年中さん、年長さんの友達が来てくれました。6月は「みんなで元気にミニ運動会！」入場行進では、幼稚園の友達が学園の友達の手を取ってリードして歩き、学園の子どもたちもペースを合わせ、笑顔で行進しました。年中さんは初めての来園交流だったので、手を繋ぐときに下を向いたり、手を引っこめたり、ちょっぴり恥ずかしそう。11月は「ペースを合わせて大玉ころがし！」幼稚園児、学園児が1グループとなって「よいードン！」とスタートです。幼稚園児の「こっちだよ」の声を聞き、進路を修正しようとする学園の子ども達。6月には緊張していた子も、順番に名前を呼ばれると恥ずかしがらずに前に出て、一緒に取り組むことができました。2月は「リズムに合わせておしくらまんじゅう&パラバルーン！」小グループごとに「おしくらまんじゅう♪」のリズムに乗せて、からだとかたを触れ合わせ押し合いっこ。歌と笑い声があちこちで聞かれました。そして、毎回最後には幼稚園児から歌のプレゼント！学園の子は座ってからだを揺らしたり、手拍子をして聴いていました。中には幼稚園児の列に交じって一緒に歌う子まで！学園以外の友達に緊張したり、恥ずかしがったりしながらも、どの子もさよならは笑顔で「タッチ」していたのが印象的でした。



## からだあそび教室



今年度のからだあそび教室は個別グループ、集団グループに分かれ、それぞれ年10回行いました。個別グループでは、職員と1対1での関わりの中で遊具に合ったからだの使い方を知ること、コミュニケーションを取ることを大切に行ってきました。始めは苦手だったトランポリンに自分からチャレンジする子や、他児の真似をして遊具であそぶ子どもたちの姿が見られるようになったことに成長を感じます。集団グループでは、他児との遊具の共有やルールのあるあそびを中心に行ってきました。特にルールのあるあそびでは、活動の最後にかくれんぼや、だるまさんがころんだ等のゲームを行いました。かくれんぼの中では“探す”ということができるようになったり、だるまさんがころんだでは、止まれのカードを見るとお父さんやお母さんと一緒に止まることができるようになるなど、回数を重ねることで子ども達の力になることを感じました。

☆ウォーターライダー☆



気持ちいい～♪

☆遊具(一本橋～脚立へ)☆



高い所もチャレンジ♪

☆うどん作り☆



おいしくなあれ



# ★お別れ遠足★



## ももグループ

ももグループは『公共の場で過ごす』を目標にウォットと外食体験に出かけました。はじめの会でも『お母さん・お父さんと手をつないで歩く』などのお約束をして、学園バスに乗り込み出発です！！

はじめに向かったのはウォットです。入り口をくぐった瞬間に子ども達からお母さん達からも「おー！」という声。薄暗い中で水がキラキラと光る空間に親子で驚いている様子でした。トンネル状の大きな水槽の前では、真上を泳ぐ魚を指差すお母さんと、指の先を見上げる子。ふれあいコーナーでは「平気〜♪」とナマコやヒトデを手に載せるお母さんと、手に載ったナマコ・ヒトデをツツツと触る子。親御さんも一緒に楽しんでいる様子で、その姿が子ども達の興味につながっているようでした。また、水槽の中の魚への関心が低く走り出しそうになっていた子も、ふれあいコーナーの魚を見たり、クイズコーナーであそんだりしており、一人ひとりがお気に入りのポイントを見つけられたことで、公共の場で過ごすことができました。

続いて外食体験です。デニーズ・幸楽苑・くら寿司の3グループに分かれて昼食を食べました。デニーズや幸楽苑では、ランチタイムで人が多い中での食事を経験しました。中には待ち時間のために絵本やお絵かきグッズを持参している家族もあり、そのアイテムを使って料理が出てくるまでの時間や食べ終わってからの時間を過ごすことができました。くら寿司では回っているお皿やタッチパネルが気になり席に座っていることが難しい子がいましたが、「1回だけ」と約束をしたり、テーブルに置いてあったメニューを見て過ごす等で席に座って過ごすことができました。

今回の遠足では公共の場、特に外食をするということで、緊張している親御さんも多く、適時お子さんと約束をしたり、アイテムを使用するなどして、公共の場で過ごすための働きかけがみられました。今回の経験を活かして、ぜひ家族でもいろいろな場所にお出かけしてほしいと思います。



## きいグループ

きいグループは、JR浜松駅で新幹線の見学とアクトタワー展望台へ行きました。

新幹線見学では、4名の駅員さんに同行していただき、新幹線の通過や、停車する新幹線の先頭車両を間近で見ました。新幹線が通過するたびに「おお〜」と言ったり、音が苦手な子で耳を塞いだり、泣いてしまう子もいましたが、停車中の新幹線の先頭車両を背景に集合写真を撮ることができました。さらに、駅員さんが改札出口までお見送りをしてくださり、今回の入場券を記念にいただきました。ホームでは、お母さんと手をつなぎ続けていたり、駅員さんに「ありがとう」と自然に声を掛けることが出来ていて、良い体験となりました。

展望台のガラス張りのエレベーター内では、身を乗り出して外の風景を覗いていましたが、とても静かに乗っていました。最上階に着くと、広い浜松市が一望でき、こちら、身を乗り出してガラスに顔を付けて、「バスがいた！」「電車！」と遠くの風景の中の変化でもよく見ていて、お母さんに伝えて楽しめました。

昼食はアクト地下の「ゴンザ」でうどんを食べました。たくさん歩き、お腹が減ったのか、お母さんの分を分けてもらう子もいて、お腹いっぱいになりました。

帰りは、少し時間が早かったので、アクトの庭園まで階段で上り、芝生や階段、ステージなど、友達と追いかけて遊んだり、寝ころんであそびました。



## みどりグループ

- ・社会経験を積むこと（公共交通機関を利用する・公共の場であそぶ・外食体験）
- ・集団を意識して行動すること
- ・お母さんと一緒に身体を動かしてあそぼう！

この3点をねらいに掲げて、さあ出発！！プランは浜松駅に集合し、電車に乗って新居町駅へ。そこから10分歩いて文化公園へ。浜松駅に戻って「うおかつちゃん」で外食体験です。

電車に乗る前には「電車の中はシー、だよ」と、指を口に当てて確認。公園に向かって歩く時には「みんなで一緒に歩きましょう。お母さんと手を繋いで歩きましょう」と、お母さんと手を握り合って確認。事前に約束ごとを確認し、公共や集団のルールを知り、約束を守ることを大切に最後の遠足でした。お食事の前、「みんなのお食事が揃うまでは待っていきましょう」の職員の声に「〇〇くんのお皿にはエビフライがあるね！おいしそう！」など周りのお友達とお話が出るようお母さんが子ども達に話しかけ、「〇〇さんのバナナおいしそう！」「半分どうぞ」など友達と分け合う姿も見られました。浜松駅まで、公共のバスや赤電の利用に挑戦するご家族が何組もいたり、「今日の様子を見て、家族で電車でお出かけしてみたい」と感想が聞かれ、社会経験に一步踏み出すきっかけとなる、遠足となりました。





## 給食交流



11月からたてわり活動の一つとして給食交流を行ってきました。ここでは普段過ごしている部屋とは違う部屋で過ごす、色々な人からの働きかけを受け、だれとでもできる力を育てることをねらいとして行ってきました。給食交流では、いつも過ごしている教室で食事をしたり、他グループの部屋まで行きいつもと違うところで食事を食べます。教室移動の時に初めは慣れない教室移動に泣く子がいましたが、事前に食べる部屋を伝えることでスムーズに入れるようになったり、デザートを食べる時、「今日はみどりグループのお兄さん、お姉さん達にデザートを配ってもらいます」と先生が言うと、他のテーブルから拍手が起こり、それを受けたみどりグループのお友達はお盆の上にのったデザートを落とさないように運び「どうぞ」と言ってデザートを配ることが出来ました。デザートをもらったお友達も「ありがとう」と言って受けとることが出来るなど、「どうぞ」「ありがとう」のやりとりをすることが出来ました。また、初めて一緒に食べるお友達にお礼を言うことが出来るなど普段とは違う様子が見られました。来年も、いつでも・どこでも・だれとでもの力を育てる活動の一つとして、また行っていきます。



## 手作りクラブ



平成25年度の手づくりクラブは2月までに9回行われ、延べ70名（在園児48名・OB22名）のお母さん方が参加してくださいました。前年度から引き継いだ消防車のダッシュくんの大型紙芝居をはじめ、すうじのうた、壁面、大きなカブのペープサートを作ってくださいました。

参加されたお母さん方は、毎回楽しくお話をしながらも、子どもたちのためにより良い作品を作ろうと、少しの妥協もせず納得がいくまで作り直してくださいました。

10回目となる3月の誕生会では、完成した作品をご披露していただきました。

今年度も素敵な作品を作ってください、ありがとうございました。



## 根洗学園に来た実習生・ボランティアさん

今年度も多くの実習生・ボランティアさんが学園に来てくれました。実習生・ボランティアさんが部屋に来ると、子ども達は「あそぼー」とかけ寄る子や恥ずかしそうに照れて笑う子がいました。青空クラブでは、親御さんからは「ボランティアのお兄さんやお姉さんと顔見知りのように遊んで楽しそうでした」と感想がありました。来年度も多くの実習生やボランティアさんとあそび、子ども達の笑顔がいっぱい見られるといいですね。

25年度実習生・ボランティアさん延べ人数（外部からの研修含む）

|    | 実習   | ボランティア |
|----|------|--------|
| 前期 | 65人  | 167人   |
| 後期 | 75人  | 82人    |
| 合計 | 140人 | 229人   |

### \*実習生・ボランティアさんの感想\*

- ・子ども一人ひとりを知りたいと思うことで、子ども達の好きなことや嫌いなことが見えてきました。
- ・友達におもちゃを貸してあげていて、優しいなと思いました。

### \*学園に協力してくださったボランティアさん\*

- ・聖隷クリストファー大学、浜松大学、浜松学院大学の学生さん
- ・ゆうゆう塾さん
- ・赤とんぼ連さん
- ・育成会のみなさん
- ・でんでん虫の会さん
- ・根洗町婦人部のみなさん

本当にたくさんのご協力をありがとうございました。





## 音あそび



今年度は、各グループ6回ずつ松岡先生に音あそびを実施していただきました。新聞紙・どんぐり・輪ゴム・ピンポン玉等、身近な素材を子ども達は一人ひとり自由に使い、音を楽しみました。新聞紙は破ると“びりびり”、丸めると“くしゃくしゃ”、細かくちぎって散らすと“ひらひら”・・・新聞紙ひとつにおいても様々な音が楽しめます。毎回、音あそびの最後は松岡先生の『波紋音』の演奏を聴きました。波紋音の優しい音色に子ども達は真剣に聴き入ったり、身体を揺らしていました。

松岡先生から「みどりグループさんはダイナミックに活動する時と静かに聴く時のメリハリがあって、さすがですね」「きいグループさんは一人ひとり興味を持って笑顔で取り組む姿が印象的でした」「ももグループさんは回数を重ねる毎にお話がとっても上手に聞けるようになりましたね」と言っていただきました。

お家でも身近な素材を使って、ぜひ様々な音を楽しんでみてはいかがでしょうか？



## 音楽あそび



今年度も片岡先生の音楽あそびが2回行われました。全グループ、講師の片岡先生と一緒にピアノで連弾をしました。「次にやりたい人！」と片岡先生が聞くと、「はい！」「はい！」と手を挙げて猛アピールする子どもたち。いざ、連弾が始まると、指1本で弾く子、手全体で弾く子とさまざまでした。始めはピアノにふれることを楽しみ、途中からハッとした表情で片岡先生の顔をのぞく姿が見られるなど、自分だけが音を出しているのではないということに気づき、片岡先生と一緒に弾いていました。鈴、木琴、トライアングルなどの楽器に触れ、自由に音を出す経験や子どもたち一人ひとりが奏でる楽器の音に合わせて、片岡先生がピアノの音を加えると、音がまとまり、ひとつの曲に変化していきます。すると、踊り出して喜ぶ子や身体を揺らす子の姿が見られました。先生や友達と一緒に楽器にふれて音楽を創り出す経験をすることができました。



## アート



3月10日に今年度最後のアートを行いました。今回のテーマは「穴あき絵本作り」でした。白紙の絵本の所々に丸や三角等の形が切り抜いてあるものにクレヨンでお絵描きする活動です。クレヨンを3本握りグリグリと力強く描く子、穴あきの部分をリングやバスに見立てて描く子、クレヨン全色を使ってカラフル描く様子がありました。作った絵本をみんなの前で発表すると、「これは僕が描いた～！」「私、大きいりんご描いた！」と誇らしげな子ども達！みんなの前で発表することも楽しめました。

アートでは、一年間を通して、子ども達の描きたい気持ちや表現を職員が受け止め、自分の力で取り組むことを大切に行ってきました。その中で与えられた素材からそれぞれが使い方を考えて取り組むようになってきたことを感じ嬉しく思います。日々の療育の中でも子ども達の発想を共有し、あそびや活動を今後も大事に行っていきます。

